

特集 たくさんのほたらく

## 作った部品が世界中の自動車に

### 自動車部品製造

●神奈川・しんわルネッサンス(就労継続支援A型) 荻野文夫

自分は、1974年に平塚市にある進和学園の寮に入りました。いまは、従業員として働いています。43年間、ホンダの自動車部品製造に携わる仕事をしています。仕事は、トラックで入ってくる部品を仕分けて、各ラインに運ぶことです。フォークリフト運転の資格も持っています。ラインに入ってベンチをつかい、ホースにクリップを組む仕事を手伝います。

自分は、品質担当者としてきびしいです。不具合を出さないために、部品を①でいねいに扱う、②らっぽうに扱わない、③やさしく扱うことを、みんなに伝えています。

2006年、埼玉製作所の工場見学に行きまし



フォークリフトで部品を運搬。



ラインに入っている作業。

た。世界中でホンダ車に部品が組み付いて走っていると思うと、うれしいです。「安全第一」のために、もっと品質管理を頑張らなくてはいけないと思います。

## また行きたいステキなところ

### アメニティグッズ製造

●東京・豊島区立目白福祉作業所 池田明日香

ある人気リゾートホテルのバスルームに置かれているアメニティグッズの仕事は、ずっと一番人気です。キャラクターがデザインされた素敵な缶が大好きで、楽しくセットや検品ができるそうです。

以前から、「このホテルに泊ってみたい」という話をみなさんから聞いていたので、相談して宿泊旅行の行き先に決めました。ホテルのスタッフも素敵で、「仕事をいつも頑張ってきたから、実際にセットしたものが置かれるホテルに泊まれることになって楽しみにしている」と伝え、1部屋に1個しか置いていないアメニティグッズを全員分用意してくれました!

部屋に置かれたアメニティグッズを見つけると、満面の笑みで写真を撮ったり、いつものように中身を出し入れしたりする方も…。初めて

手に入れた大切な缶、「友達に見せたら『いいな〜』と言われて」とうれしそうに話をしてくれた方もいました。何より、旅行の後から「材料を落とさないようにしよう」「キレイにやらなきゃね」「頑張ってたくさん作らないと」など、素敵な声かけが聞けるようになりました。



自分たちが手がけたアメニティグッズを手に。



## 自分の仕事が どう役立っている？

見て、知る、社会との接点

はたらく意味を考える上で、自分の仕事がどう役に立っているのか知ることはとても重要です。ここでは、関わった仕事の成果を見ることで、一人ひとりのやりがいにつなげている職場を紹介します。

## 「役に立つ」を実感すること

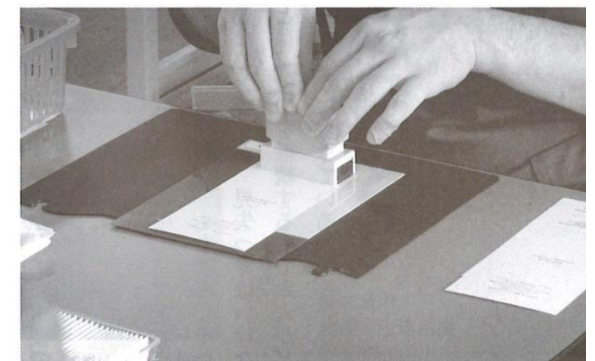
### ジュエリー販売の補助

●神奈川・株式会社ハートフルアーク(株式会社4℃ホールディングス特例子会社) 相模原営業所長 小貝武司

新人を店舗見学に連れて行ったときのことで。「このシールもハートフルさんに切っていたのだいたんですよ!」と店舗スタッフが手にしたシールの袋には、同行した新人スタッフの名がありました。「これ、私が切りました!」と弾ける笑顔。これが私たちの力の源です。

私たちのおもな仕事は「店舗サポート」。4℃のショップで取り扱うジュエリーの取扱説明書やお預かり伝票に店舗のスタンプを押したり、ギフト用のリボンをカットしたり。単純作業ですが、お客様の手に渡るものなので完成度が求められます。そのため全員が本社(東京・品川)と店舗を訪問し、自分たちが作ったものがどのように使われているかを確認しています。同時に店舗のスタッフから「いつもありがとう!」と声をかけてもらうことで一気にモチベーショ

ンも上がり、「仕事の意義—どこにつながる仕事をしているのか」「役に立つ仕事をしていること」を実感することで翌日の仕事での表情や動きも変わってきます。これも私たちの力の源です。



取扱説明書にスタンプを押す仕事。